

令和5年度 新潟県立阿賀黎明高等学校 第3回 学校運営協議会 議事録

1 日時

令和6年1月22日（月）10時～12時

2 会場

新潟県立阿賀黎明高等学校 多目的ホール



3 参加者

委員7人（欠席者なし）

県教育委員会2人

（オブザーバー参加）

- ・阿賀黎明高校魅力化プロジェクト関係者7人
- ・阿賀黎明探究パートナーズ関係者0人
- ・阿賀黎明高等学校教職員5人

計21人

4 次第及び発言の概要

(1) 開会 会長挨拶（遠藤会長）

- 今年もよろしくお願ひ申し上げます。1月1日の能登半島地震については、大勢の亡くなられた方や被災された方がいらっしゃるのことでお見舞いを申し上げたい。連日流れているニュースで高校生や中学生の話題も出ている。共通テストを受験している高校生もおり、被災した中でも共通テストを受けているという話があったが、大変なことだと思う。中学生は集団避難をして、親元を離れて学びを続けるとの話があり、大変苦勞されていると感じている。自治体の中でそういう判断をできるかどうかという点も含めて、身につまされるような気持ちだ。保護者を含む関係者の皆さまが、子どもたちの学びを止めないという覚悟のもとで動いていることに敬意を表したい。
- 阿賀黎明高校においても、進路を決めた生徒や進路に向けた準備に真つ最中の生徒がいると思う。今年度、皆様の努力があつて、着実に学びの成果が出ていたり出始めていたりする。今後の高校生活をどう充実させていくかが鍵だと感じる。
- 本日は令和5年度の取り組みの総括と来年度に関する意見交換、スクール・ポリシーに関する話が出ると思う。活発な意見をいただけるとありがたい。

(2) 校長挨拶（伊藤校長）

- 本日は御多忙の中ご参加いただき感謝申し上げます。県の教育委員会からは企画振興係の齋藤様、南雲様にお越しいただき感謝申し上げます。
- 学校運営協議会も今年度3回目ということで1年の総括をする時期となった。この後それぞれの担当の方から詳しい説明、報告があると思うが、私からは総括の話、スクール・ポリシー策定、来年に向けた話をしたい。

- 先ほど遠藤会長から進路の話も出たが、3学年15名の内ほとんどは進路が決まった。決まっていない生徒も2名いるが、希望も含めた形で資料の中に数字を入れている。4年制大学へ4名、専門学校へ8名、就職3名となっている。昨年度に比べると就職が少し減って専門学校が増えている。今年度卒業生の進路先は確定していない生徒がいるため記載していない。
- 本校の地域と連携した活動では今年度も昨年度から引き続き、総合的な探究の授業における探究活動やプロジェクト学習、学校設定教科「地域学」における活動、家庭科等をはじめとする教科における活動を実施している。
- また、学校行事における地域参加型の活動として、昨年度の文化祭にて地域の方にも参加いただく阿賀黎明おもしろマルシェを開催したが、今年度も体育祭と文化祭でマルシェを開催した。体育祭では地域の方にも参加いただける競技も設けた。このように地域参加型の学校行事にも取り組んでいる。
- 国の委託事業である新潟の未来をS a G a S uプロジェクトは、今年度が3年目となり最終年度となる。小規模校における授業の多様性や質の確保を行う遠隔授業、S a G a S u委員会では佐渡の高校と本校とでネットワークを活用した学校間交流等、さまざまな取り組みを実施した。地域協働体制の確立がこの事業の目的である。
- 11月14日に新潟の未来をS a G a S uプロジェクトの最終事業報告会が朱鷺メッセで行われた。パネルディスカッションには高校生2名が登壇し、本校生徒も大人の中に入って自分の意見を述べてくれた。こういう場でしっかりと自分の意見を述べるができるというのも学びの成果だと感じた。立派に成長した姿を見ることができ良い報告会だったと思う。
- 遠隔授業については、昨年度は地理、化学基礎の2科目だったが、今年度から新たに地学基礎、書道を加えた4科目を実施した。今年度から書道の遠隔授業が始まり、実技科目でどこまで授業ができるかの不安もあったが、何度か授業を見た中で、生徒は楽しそうにイキイキと授業を受けていた。私も小さい頃書道教室に通ったこともあり、御行儀よく紙に丁寧に書くというイメージがあった。しかし、遠隔授業では自分の好きな言葉を好きなレイアウトで書いた作品に対して、先生が「いいね」という声かけをして生徒が楽しそうにしている姿が見受けられた。小規模校ということもあり、芸術科目は今まで音楽しか選択できなかったが、遠隔授業を実施することで音楽と書道から生徒が選べるようになったため大変ありがたいと思っている。
- 阿賀黎明高校魅力化プロジェクトでは、阿賀町及び阿賀町教育委員会から御支援をいただいて、本校の魅力化活動をしていただいている。まなび体験会では、生徒が企画に参加しており、内容の充実が図られている。また、本校へ入学することのメリット、デメリットの両方を周知した上で受験を検討いただいていることもあり、年々目的意識を高く持って入学している生徒が増えているように思う。
- 本校が行った取り組みとしては、隣県のボート部のある中学校にも入学案内を出した。現在は部員数も少なくなっており、維持の面で大変であり、特色化選抜のボートの志願者もここ2年いない状況であるため、県外にも周知を行った。残念ながら今のところ反応はないが、来年度は全国のボート部がある中学校へ周知したいと思っている。全国的に見ると、県によっては高校に受け皿がないところもあり、ラ

イバルが多くない新潟が良いと思ってくれる場合もあるのではないかと考えている。案内の中には、生徒が作った部活紹介動画も入れて紹介をしている。

- 今年度の新たな取り組みとして、総合的な探究の時間で阿賀黎明中学校と連携を行った。令和2年3月に本校に併設されていた阿賀黎明中学校が閉校し、県と町で連携型中高一貫教育の協定を結んで、英語科における連携をしていた。今年度は、特色を生かした連携もできればということで、総合的な探究・学習の時間で3回の合同授業を実施した。今年度はまず一緒にやってみようということで取り組んでいる。来年度は今年度を踏まえて、発展・充実した活動を行えればと思っており、今まで2回協議を実施してきた。こういった活動を阿賀町の15年教育とも繋げていければと思っている。
- スクール・ポリシーの策定について、昨年度3月にスクール・ミッションが示された。スクール・ミッションは、学校の存在意義、社会的役割、目指すべき学校像を示したものである。本校のスクール・ミッションは、以前お知らせしたとおり「コミュニティスクールとして地域と協働し、地域と共につくる人材を育成する学校」である。今年度はスクール・ミッションを基に、スクール・ポリシーを策定した。スクール・ポリシーは、グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つからなる。グラデュエーション・ポリシーは、育成を目指す資質能力に関する方針と言われているが、平たく言えば「高校3年間の教育で生徒のどういう力を重点的に伸ばしたいか？」を示すものである。カリキュラム・ポリシーは、力を伸ばすためにどういう教育活動を展開するかについての方針、アドミッション・ポリシーは、他2つのポリシーを踏まえて、入学する生徒にどういうことを期待するかを示したものだ。前回の学校運営協議会の熟議で策定について検討いただいた際、猪俣副会長から提案をいただき、11月22日、12月7日に地域協働部会を開催して御意見をいただいた。11月29日には魅力化プロジェクト会議の中でも途中経過の案を提示した。12月8日には同窓会の関東支部総会でも御意見をいただきたいと話してきた。12月12日に生徒及び保護者にも提示し、12月19日の魅力化プロジェクト会議では第2回地域協働部会での御意見を踏まえた修正案を提示した。そして、12月20日の職員会議で教職員に提示した後、12月22日に県教育委員会に提出をしたところである。
- グラデュエーション・ポリシーは「自分や社会を見つめ、他と協働しながら取り組む力を育成します」「複雑化する社会や地域に関心を持ち、様々な考えを受け入れる力を育成します」「好奇心をもって自ら学び続け本質を見極めようとする姿勢と力を育成します」の3つである。それぞれ「今行っている地域活動を通じて、自分や社会を見つめながら、社会や地域の中での自分の役割あるいは課題を見つけるとともに、それを他と協働しながら解決に導ける力を育成する。」「世界各地で紛争が起きているが、複雑化する社会の中で、様々な価値観を持っている他者を受け入れる力や、人権感覚を育成する。」「急激に変化する現代社会において、高校あるいは大学で学びが終わるのではなく、社会に出てからも学び続けなければならない、その姿勢を育成する。」という趣旨で策定した。
- カリキュラム・ポリシーについて、本来はまずカリキュラム・ポリシーがあっ

て教育課程があるという関係性であり、後付けになってしまうが、本校の教育課程に基づいて4つ定めた。現在2年生では、進学と就職の両方に対応できるよう3つの学類に分かれるようになっている。また、数学や英語では、少人数制で習熟度別の授業も展開している。地域連携活動も行っており、プロジェクト学習においては、生徒が自らの興味関心に応じた題材を考え、主体的にプロジェクトを行うという理想形をもって策定した。

- アドミッション・ポリシーは、持っている能力より姿勢や意欲を重点に置いて策定した。「地域の活性化に興味を持ち、学びを深めたいという意欲をもつ生徒」「個性を認め合い、他者と協働して粘り強く努力する生徒」「主体的な探究意欲にあふれ、積極的に学習に取り組む生徒」の3つを挙げた。最終的には今年の3月に県から公表となる。また意見があれば伺いたい。
- 本校の入学者数の遷移の資料を挙げる。1970年頃には300名ほど入学者がいたが、現在は17名ほどになっている。阿賀町の人口も3万人ぐらいから現在は1万人を割っている。2050年には3千人という推計も出ている。そうならないように、本校の魅力化、活性化、特色を町の活性化にも繋げていければいいなと思う。御意見いただければと思う。
- 新学習指導要領には「新しい時代・急速に変化する社会に対応する人材の育成」とあり、これまでの学びだけでは十分に対応できない。これまで主体とした知識を効率よく習得し、効率よくアウトプットする学びに加えて、課題解決力やコミュニケーション力を伸ばすための主体的・対話的で深い学びや地域に開かれた教育課程の実践が求められている。本校が現在取り組んでいる地域と連携した活動は、これに合致している活動である。学校の特色化・魅力化を推進し、生徒数を増やし、町の活性化につながることを本校の目標の一つである。
- 現在、通年を通じて学校で地域の方に授業を伴走、支援いただく体制が構築されており、全国的にみても進んでいる学校の一つだと思う。ただ今の状況がゴールではなく、これからの新しい学びのスタートライン、第一ステージにきた段階で、今後現在の活動をどう充実させていくかという点について、学校のこれからの学び、地域の新しい学びをどう融合させるかが大事だと考えている。町の教育委員会や地域コーディネーターを中心に実施しているまなび体験会と高校が主体で実施している説明会は内容が違う。今やっけていただいている学びを融合させていくためには、学校と地域の方がコミュニケーションをとって協働していく必要がある。私自身、スクール・ポリシー策定で地域の方と検討を重ねた時間は、生徒の学びに夢や希望を持って話す楽しい時間だった。これからそのような場に、教員にどんどん入ってもらうことが大事。学校運営協議会委員の方からも「学校は何をしたいのかが見えづらい」という御指摘をいただくことがある。学校と地域でどこに向かおうとしているのかの共通理解を持つことができるようなコミュニケーションの場をもっと作っていければと思う。今こうしていい場ができているので、今後中身を充実させていくために、忌憚のない意見を話せる場を作っていければと思っている。本日も来年度に向けて忌憚なき御意見を願います。

(3) 生徒募集における連携（西田地域学校協働活動推進委員）

- 地域みらい留学は今年度も全国から募集活動をしており、4年目となった。地域みらい留学とは、オンラインのプラットフォームがあり、そこに全国の中学生が登録、合同説明会への参加をした中で興味のある高校のオンライン個別説明会へ参加した後、現地で行われる学校見学会へ参加し、入寮を希望して面接を受け、高校を受験し、入学という流れで行われている。
- 本校では、高校説明会をまなび体験会と呼んでおり、今年度は7月（2回）・8月・10月・11月に計5回実施した。参加数は延べ35組で、2回参加している家族を除くと32組である。まなび体験会とは日程が合わないが現地見学を希望し、個別に見学したのが4組。よって、令和5年度は36組の生徒及び保護者に現地見学をしていただいた。内訳は、3年生が29組、2年生が6組、1年生が1組。令和4年度の見学数は22組で、3年生が16組、2年生が6組だったため、今年度は大幅に増加している。増加した要因としては、新潟県内の参加者が増えている点が挙げられる。7月にテレビ新潟のニュースで本校が取り上げられたことが影響していると思われる。そのため、今年度は県内の参加者が昨年度より10名以上増えている。結果としては、入寮希望者が14名で入寮許可を出したのが10名。うち2名が辞退したため、現在の入寮見込み者は8名となっている。

(4) 教育活動における連携（加藤小中高連携コーディネーター）

- 別紙1に記載されている教育活動における連携実績を説明する。1学年の阿賀町さいこうプロジェクト（総合的な探究の時間）では、今年度主に「福祉体験」と「あがまちゼミ」の2つに取り組んできた。福祉体験では、阿賀町社会福祉協議会と連携し、町内4つのいきいきサロンに生徒が4名ずつ訪問し、レクリエーションの企画実施をとおして、11月以降に取り組むプロジェクトの企画実施に向けた学習に取り組んだ。
- 私も1つのサロンを訪問し生徒の様子を見ていた。生徒は、出身が町内外問わずいきいきと活動しており「〇〇さんのお孫さんなのね」といった顔の見える交流を地域の方と行っていた。地域みらい留学生も寮で地域の方との交流を活発に行っているため、顔馴染みの方もいらっしやっただけ、関わりやすい場ができていたように思う。
- あがまちゼミでは、3名の方に御協力いただき3つのゼミのいずれかに所属し、プロジェクトを企画する活動を2年次に向けて現在行っている。
- 2学年の阿賀町さいこうプロジェクトは、6月20日、9月14日、15日をマイルストーンとし、14名の生徒が自身の興味関心と地域資源を結びつけたプロジェクトを1人または2人1プロジェクトで実施した。11月に行われた阿賀町こども未来フォーラムにおいてもポスターセッションで発表を行った。
- 今年度は、阿賀津川中学校1学年との連携授業を2学年の阿賀町さいこうプロジェクトで3回実施した。高校生のプロジェクトに中学生が参加する形で、中学生にとってはプロジェクト学習の型を学ぶことが狙い。中学生からは「楽しかった」という感想が出ており、探究学習自体を面白いと感じる機会となったことも

価値の一つである。また、高校生のプロジェクトを例として、小学校の総合から中学生の総合へのステップアップである、自分自身の興味関心と地域資源をどう結びつけるかという視点を得ることも中学生にとっての価値だと感じた。

- 2学年地域学では、6月から11月の計10回で「廃校キャンプ提案プロジェクト」と「おかず／炭づくりプロジェクト」の2チームに分かれて活動を実施した。「廃校キャンプ提案プロジェクト」では、旧西川小学校神谷分校を実際に見学し、その場所をどのように活用できるかの企画を作った。「おかず／炭づくりプロジェクト」は、NPO法人七福の恵からお話を伺い、子どもが遊ぶ中で地域資源の活用に触れられるような炭づくり体験の企画と地域の方とおかずを作るアイデアを考えた。
- 3学年地域学では、新潟ふるさとCM大賞への応募をゴールに阿賀町を題材としたCMを作成した。来年度の内容に関しては担当教員と検討中である。
- 3学年の家庭科科目「消費生活」では、7月から11月にかけて計19回地域と連携した授業を実施した。7月から9月までは、麒麟山酒造株式会社と糀屋商店に協力いただき米づくりから酒づくりまで地域内でどのような循環が生まれているかを学習した。9月から11月までは、れふえり様と目黒農園様に御協力いただき、えごまの葉ジェラートの企画・発信を考え、実際に黎明祭で提供する体験をした。
- 3学年の家庭科選択科目「フードデザイン」では、6月から11月に計16回地域と連携した授業を実施した。受講生徒は1名だったが、10月に清川高原保養センターで生徒が考案したメニューの提供を目標とし、それを通じて地域の食を知ることやそのPRについて学んだ。
- 体育祭と黎明祭では、昨年度から引き続き「阿賀黎明おもっしえぞマルシェ」を阿賀黎明探究パートナーズを中心に企画、準備し実施した。学校生活の中では、地域の方と生徒が直接関わる機会が授業以外でなかなかないため、マルシェを通じて交流機会が生まれたと感じているところである。

(山口教諭)

- 別紙2について、阿賀黎明探究パートナーズとは別に地域と連携して実施した活動について御説明する。
- 2学年の地域学Aでは、阿賀町雪椿の会の方に御指導いただき雪椿の挿木を体験した。また、山崎糀屋様に来校いただき、糀文化・発酵についての講義、実習を御指導いただいた。
- 糀文化・発酵の授業は昨年度も実施しており、現在の3年生が2年生の時に仕込んだ味噌を使って先日調理実習を行った。エゴマを学校で育てており、それを収穫し、自分たちで作った味噌と合わせてエゴマ味噌を作った。
- 3学年の地域学IIでは、あがのがわ環境学舎の方にガイドいただき、草倉銅山や旧昭和電工鹿瀬工場の見学を行った。また、中惣林業様に御協力いただき、生徒一人当たり10本ほどの苗木を植える植林体験を行った。写真の撮影技術についての講座では、写真工房冬人様を講師に迎え「四季のあが町写真コンテスト」に向けて御指導いただいた。応募した生徒の中には、優秀賞を受賞した生徒もいた。

(5) 令和6年度の地域との連携の取り組みについて（加藤小中高連携コーディネーター）

- 今年度の取り組み内容を基本にし、今年度の振り返りを踏まえてより学びを充実させるためにどうするかを担当教員と検討する予定。
- 阿賀津川中学校との連携授業については、2科目で連携を行えればと思っている。1つ目は阿賀津川中学校2年生「総合的な学習の時間」と阿賀黎明高校2年生「総合的な探究の時間」において、年2回程発表会のような学び合いの場での連携を計画している。2つ目は阿賀津川中学校1年生「総合的な学習の時間」と阿賀黎明高校2年生「地域学A」において、年4回ほど地域フィールドワークや高校生企画のプロジェクトへの参加のような形での連携を検討している。

(6) 質疑応答

（西田地域学校協働活動推進委員）

今年度の新たな取り組みとして家庭科の科目「消費生活」、「フードデザイン」で地域へ出る活動を行ったが、生徒の反応や成果はどのようなものであったか。

（山口教諭）

今まで行ってきた学習とは違い、受け身ではなく主体的に考える力が育っていると感じた。阿賀町をよりよくするためにどうしたらいいかを自分なりに考える力も身につけている。地元への愛情も育っているように思う。

（猪俣副会長）

生徒募集における連携について、入寮希望者が14名から入寮許可を10名に出した理由は、寮の設備に関する部分か、選考の部分か伺う。

（遠藤会長）

14名のうち10名に許可を出した背景は、寮での生活を含む高校生活の3年間で厳しいのではという観点を考慮した結果である。寮の施設としては28名が最大定員となっている。

なお、辞退が出たているが、追加で入寮許可を出すことはできない。

（猪俣副会長）

現在の3年生が卒業したら寮の定員に余裕は出るということか。

（西田地域学校協働活動推進委員）

28名の定員ぴったりだとしても9名ないしは10名しか入れない。今年度多く入寮許可を出すと来年度の入寮許可を出せる人数が少なくなってしまう。

(7) 指導・助言（南雲指導主事）

- いつも阿賀黎明高等学校への御支援をいただき感謝申し上げます。今年度が最終年度となった新潟の未来をS a G a S uプロジェクトの取り組みと今後の体制等についてお話しする。
- 書道の遠隔授業、学校運営協議会での熟議の様子、オンラインでの生徒間交流の様子を資料に挙げさせていただいた。
- 阿賀黎明高校では今年度4科目を遠隔授業として実施した。化学基礎は羽茂高

校と同じ時間帯で行っており、特徴的な取り組みに御協力いただいている。書道は阿賀黎明高校と佐渡高校相川分校で実施している。ICT機器を最大限に活用して効果的な授業を行い、配信教員と補助教員が連携して行ってきた。タブレット等の使用方法に課題は見られたが、概ね配信教員の積極的な取り組みにより一定の成果があったと考えている。

- 新潟翠江高校の教員が阿賀黎明高校と羽茂高校に配信しているため、昨年度に校時を揃える対応をいただいた。互いの生徒の様子が見えるようにテレビ会議システムを使って環境を揃えてきた。
- 理科に関しては実験の検証を行ってきた。今年度の新たな取り組みとして、ハイブリッド実験授業を行った。同じグループにそれぞれの学校の生徒がいて、どちらかの学校の現地に教員が行った。今回の場合は、羽茂高校では実験を行い、阿賀黎明高校の生徒は同じグループの羽茂高校の生徒に実験の様子を見て質問をしたり写真や動画を送付したりして、最終的にはグループみんなでレポートを作成する。受講生徒の感想を見ると、他校の生徒と実験をする機会はあまりないため、意欲が高まるいい機会になっていると感じる。
- 地域連携等の阿賀黎明高校の取り組みを新聞等で嬉しく拝見していた。今後もよろしくお願ひしたい。
- 11月14日にシンポジウムを開催した中で、印象的だった言葉を掲載した。生徒のコメントにあった「苦労したこともあったがプラス思考で周りも巻き込みながらやっていたことが成長につながった」という言葉を大変嬉しく見ている。
- 今後この事業をどう活かしていくか。学校間遠隔授業の配信を拡大していくとともに、センターを設置し配信していくことも今後検討していく。ここでの取り組みが、新潟県の遠隔教育だけでなく、高校生の教育活動の充実における取り組みの一つになっているということで今後も御協力いただきたく思う。

(8) 閉会 副会長挨拶（猪俣副会長）

本日、大変お忙しい中ご参加いただき感謝申し上げます。県教育委員会からも齋藤主事、南雲主事に御参加いただき感謝申し上げます。

熟議を含めてさまざまな話があったが、特にスクール・ポリシーについては今年度皆様と何度か議論させていただいた。地域協働部会でも何回か議論させていただき、短い文章の中にさまざまな思いが込められていると感じる。感じることは、言葉一つ一つをみなさんと共有して理解していくことが大事。議論を踏まえて文章をつくるのは大変だったと思うが、伊藤校長先生には素晴らしいスクール・ポリシーをつくっていただいたと思う。

今年度の協議会は最後だが、次年度もこのような協議会の場を通じて阿賀黎明高校をよりよい学校にすべく、みなさまの力をお借りしたい。今後ともよろしくお願ひしたい。